



今月の利用者紹介

今月は皆さんの得意なこと、好きなことを紹介します！！

僕は手のシワを数えるのが好き♡

（所属／①名前 ②得意なこと、好きなことは？ ③得意、好きな理由は？）



けやき社会センター

- ① 東陽介さん
- ② 旅行が好き
- ③ いろいろな所に行ける



けやき社会センター

- ① 藤岡功佑さん
- ② ガイドでお出かけが好き
- ③ 楽しいから



はるか移行

- ① 諸橋さん
- ② 運動が好き
- ③ 健康を保つため



はるかB型

- ① 中井さん
- ② パズルが得意
- ③ 解くのが面白い



おおばん

- ① 田村朝明さん
- ② 妖怪が好き(油すまし)
- ③ ゲゲゲの鬼太郎で好きになった



おおばん

- ① 増田秀男さん
- ② 落ち葉や野菜くずを入れる穴掘りが得意
- ③ 職員を驚かせたい



ふれんず

- ① 細川應介さん
- ② ジブリの音楽を聞く
- ③ ポニョが好きだから



ふれんず

- ① W. M さん
- ② 黒羽快斗(まじっく快斗)
- ③ イケメンだから

〈ふれんず移転のお知らせ〉

この度、2025 年 4 月 1 日より新施設へ移転しました。

（下記詳細）

お近くにお越しいただいた際には、是非お寄りください。

住所：千葉県我孫子市岡発戸 1383-2



2025 年 4 月 24 日発行（毎月 12 回 2・4・6・8 の日）
1994 年 8 月 24 日 第三種郵便物承認

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会
川口市芝新町 15 の 9 頒価 50 円
郵便振替 001000-8-411223

～ そ よ 風 の よ う に 街 に 出 よ う ～

S S T L

つ く ば ね 通 信



社会福祉法人つくばね会

代表 千葉県我孫子市都部新田 37-2

TEL 04-7187-1944

FAX 04-7187-1947

HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>

編集・発行：けやき社会センター・はるか

おおばん・ふれんず・楓・サポートセンターけやき

日常の小さな幸せというのは、古今東西様々なカルチャーで題材にされてきました。枕草子のようなエッセイや、子ども向けの絵本、一年ほど前にカンヌで賞を取った日独合作映画もそうですね。

漫画も例外ではなく、やり過ごしてしまいそうな幸せに焦点を当てた作品はよく目にします。その中でも特に素敵だと思った漫画の話をしたいと思います。

ある天才ボクサーが網膜剥離のためにボクシングの道を諦め、ケーキ屋さんに転職します。彼の名前はエイジです。エイジが働く店に、かつて対戦して負かした現役ボクサーが偶然やってきます。彼は今のエイジを見て、「ケーキなんて何の役に立つんだよ」と落胆しますが、そのボクサー自身も戦績不振や恋人の妊娠が重なり、ボクシングを続けるのが決断を迫られます。正念場の試合、やはり負けてしまいますが、会場には恋人の声援が響いていました。試合の帰り道、彼は恋人を連れてエイジのいるケーキ屋さんへ行き、小さなカットケーキを一つ買います。そして恋人に、結婚したいこと、でもボクシングも辞めたくないことを打ち明け、彼女も「その言葉を待ってた」とプロポーズを受け入れます。エイジからケーキを受け取って、恋人が「このケーキは何なのよ。」と聞くと、ボクサーは「ウェディングケーキだよ。」と答えます。ケーキを持って幸せに包まれる二人を見て、エイジが「お買い上げありがとうございました」と声をかけると、ボクサーは「ケーキも少しは役に立つじゃん」と言い残して去っていくのでした。

何かのお祝いにケーキがある喜びを間近に見る、特等席にいるエイジの幸せ。この話のように、数ある小さな幸せの中でも「この仕事だからこそ」というものがあります。私にとってそれは、毎日会う利用者が「好きだよ」「かわいいよ」と言ってくれることです。あまりに毎日言ってくれるものですから、彼らにとっては習慣化しているだけで、言葉通りの意味はないかもしれません。それでもこの世界で、こんなにまっすぐ好意の言葉をかけてもらえる仕事はいくつありますか。もちろん人間同士ですから、敵意を向けられることもあります。事務職の私に無関心の方もいます。しかし、信頼関係が築かれた職員と利用者の、毎日繰り返される好意の応酬が見られるだけで、事務室のこの席もまた、幸せな特等席のように思われるのです。

（本部 事務長 志小田 智美）

動物とのふれあい体験

けやきの2月の土曜日活动は「成田ゆめ牧場」に行ってきました。
牧場内に入るとまずは場内散策。牛舎に入り牛の近くまで行き大きさにビックリ！触ろうとする強者も。怖くて牛舎には入らず遠くから見ている方もいて反応様々でした。次にひつじ・ヤギ・馬・ポニーなど場内にいる色々な動物を見て回り昼食の時間に。

昼食はカレーライスを事前注文しており、セルフで盛り付けだったのでおかわりまで食べることができ大満足でした。食後はソフトクリームが食べたいと希望があり最初数名でしたが食べているのを見て食べなくなる人が続出！結局皆でおいしくいただきました。



その後はひつじ・ヤギのふれあいコーナーへ。静かに座っているヤギが多く皆さん恐る恐る背中をなでていました。しばらくひつじ・ヤギとふれあいを楽しみ、その後はお土産を購入し帰りました。

普段ふれあうことの出来ない動物たちとふれあうことができ、楽しんでいただけたようでとても良い笑顔がたくさん見られました。また、皆さんが中々経験できないようなことが経験できるよう様々な余暇を考えていきたいと思います。

（けやき社会センター 進藤 美幸）

～はるか移行 就職活動の様子～

はるか移行は、現在 9 名の利用者さんが通所されています。12～3 月で 6 名の方が企業見学や実習にチャレンジしました。その中で私が担当した2名をご紹介します。



1 名は事務系のお仕事。個人情報扱うことが多く、責任重大な内容でした。もう 1 名は清掃のお仕事。落ち葉掃きなど 1 日外での作業です。チームワークも重要です。

見学・実習を終えて振り返りをすると、2 名とも「大変！」と言いながらもどこか嬉しそうで、「自分に合ってる！」と自信を持って良い表情をしていました。

2 名とも面接に進むことを決めました。清掃系の方は 2 月末に面接を終えました。結果が出るまでドキドキです…。事務系の方はこれから面接を控えています。

3～5 日の実習でも、実際体験すると、一緒に働く仲間、雰囲気、やるべきことが見えてきて、働く場所を決める良い判断材料になります。

では、企業はどういう人材を求めているか？はるかでどういう訓練を提供できるか？

皆さんが希望する、目標としている仕事に就けるように、私達は何ができるか…？

はるかでは、就職に近い形で、実践的な訓練が多くあります。就職を目指すことはもちろん、働き始めて困らないように、日常生活の課題も少しずつクリアできるように、今ははるかで出来ること、ご本人に必要なことを、精一杯サポートしていきたいです。



（はるか移行 大野 有珠）

福祉のきっかけ

私が福祉の道を選んだのは、高校生の時に進路を決める際に、子どもが好きなので子どもに関わる仕事につきたいと思い始めたのがきっかけです。

そこから色々調べていくと障がい児と関わる仕事があるのだということを知り、親と相談し福祉の専門学校に入ることにしました。専門の時の実習で、児童相談所や児童養護施設に行き、複雑な環境の子が多く、やはり関係性を作るのは容易ではなかったのが今でも鮮明に覚えています。ですが、それ故、実習中に感じたことも多く、実習を終えての達成感も大きく「こういうところで働いてみたい」と気持ちが大きくなりました。

実際、近場では児童施設が少なく、遠くまで面接を受けに行きましたが、距離の問題が生じ、就職先を決めかねている際に、当時の担任の先生より「障がい者まで視野を広げてみたら？」とアドバイスをもらい、そんな時に、けやき社会センターの求人を発見し応募しました。



面接で子どもと関わるのが好きだと話をしたところ、ふれんずという児童の部門もあること、その職員も募集していることを教えてもらい、就職早々ふれんずにも携わることができ、念願の子どもと関わる仕事にも就け、同時に障がい者と働く楽しさも知りました。この気持ちを何年経っても忘れず働いていきたいと思っています。

（けやき社会センター 竹内 麻奈美）

もしバナゲームを知っていますか？

もしバナゲームとは、「もしも自分が治療困難な病に罹り余命があと半年～1 年だとしたら」という想定で、そんな状況になった時に自分が何を大切にしたいのかを、配られたカード中から自分の希望に近いカードを選び、ゲームの中で優先順位をつけ取捨選択をしていき、最終的に手元に残ったそれを人と話し合うというものです。

カードには、人生の最後に「大事にしたいこと」として人がよく口にする言葉が書いてあります。たとえば「積極的治療をして欲しい」「緩和ケアを望む」「痛みを受けたくない」「家で死にたい」「人に迷惑をかけたくない」など「自分にとって何が大事か」というような内容です。このカードゲームを使えば、そんな難しい話題を考えたり話し合うことができます。また、ゲームを通して、家族や友人に自分の願いを伝え、理解してもらうきっかけ作りにもなります。

医療同意や医療方針などを考えた時に、利用者の意思決定支援に役立つかもしれないとこの研修に参加しましたが、少し違いました。でも、家族や自分の周りの人々とこのゲームをしておくと、いざというときの判断がしやすくなると思いました。興味のある方は市内の「高齢者なんでも相談室」にあって貸出もしてくれるそうです。ゲームを通じて、人生において大切な「価値観」や、自分自身の「あり方」について様々な気づきを得ることができると感じました。

そんなもしバナゲームを 2/11（祝）けやきプラザ 2F ふれあいホールにて体験してきました。

（つくばね会本部 何でもする課 志賀）

布佐地区社協の手づくりうどん教室

20 年以上前から地元布佐地区社協の障害者部会では手づくりピザ教室と、うどん教室を実施しています。コロナ禍後 5 年ぶりに開催され、おおばんのみなさんが参加しました。身支度整え、粉をまとめたあとは足でなく手を使ってのこねこね。次にめん棒で丸く伸ばし広げていきます。そこはかつつてうどんを打っていたおおばん利用者の腕の見せどころ（鍋焼きうどんを覚えていますか・・・）。なじみの社協の方々と交流しながら麺を切り、出来上がりです。天ぷらもついてみんなで「いただきま〜す」。

食後はみかんをいただき、畳でごろりをする人もいて楽しいひとときでした。社協の方からは「久しぶりでしたが、みなさんが元気そうで安心しました。」「手際よく一生懸命うどんを打つ様子に感動です。またご一緒しましょう」と温かい言葉を頂戴しました。社協の皆さん、お世話になりました。来年もどうぞよろしく。（おおばん 広瀬 美紀）



☆新ふれんずになりました☆

新年度が始まり活動場所の変更や新しい利用者の方・職員が増え、これまで以上に賑やかな日々を過ごしています。3 月に引っ越しを終え、新しくなったふれんずを見てまだ慣れないようで戸惑う子や広々とした活動スペースができ喜ぶ子などの様子が見られます。また日中一時利用者の方にはゆっくりと過ごすことができる部屋の確保ができ、それぞれが思い思いに過ごすことができます。それと同時に職員の目線としては、活動スペースが広くなったり、部屋の数・トイレの数が増えた分、死角になる場所を注意し視野を広げ、今まで以上に職員間での共有・連携がとても重要になってくるので、多くの目で利用者の方々の安全確保、安心して過ごせる場所の提供をしていきたいと思います。

ふれんずでは各月事にイベントや行事に合わせた活動や特別おやつの日があります。その日その日によって利用される利用者の方や人数が変わってくるので、ふれんずを利用されている子ども達全員が楽しめるように各月でイベント活動日や特別おやつの日を曜日で変えて企画しています。今年度も昨年度とはまた違った内容で子ども達と一緒に楽しい活動ができればと思います。また、土曜日や長期休みには外食やコンビニや飲食店での昼食購入を職員と一緒に言い、お金の使い方や購入方法を学ぶ時間もあります。なかなか選ぶことが難しかった子も職員やお友達と同じものを選ぶ様子やこの商品とこの商品を買うことでお小遣い内の値段で買えると分かる様子を見ていると、とても子どもたちの成長を感じます。今後も身近な生活の場面で、子どもたちの成長を感じることがとても楽しみです。今年度もふれんず職員一同、宜しく願いいたします！（ふれんず 松崎 李星）



4 月から新しくふれんずの職員になりました小原です。
一人ひとりの気持ちに寄り添った支援を心掛け、保護者の皆様と一緒に子どもたちの成長を見守って行けたらと思います。
よろしくお願いします。

「お化けでも幽霊でもいいから、会いたいなと心から思います」

津久井やまゆり事件から 8 年、あまりにも衝撃的な事件だったため昨日のことのようように事件のことを鮮明に思い出す。私は、津久井やまゆり事件で 19 歳の娘、美帆さんを亡くした母親に対する 2 年前のインタビュー記事を NHK 首都圏ネットワークで拝見し、胸が痛む思いをした。（以下【】内 NHK ネットワーク記事一部抜粋）

【美帆さんは自閉症で重い知的障害があり、ことばはないものの感情表現が豊かで態度などで自分の意思を伝えてくれたとのこと。

（事件から 6 年 今の母の心境） 「写真の美帆に話しかけるのが日課のようになっています。はじめの頃のパニックのような悲しみとは違い、じわじわと悲しさや切なさが押し寄せてきます。会えない時間が長くなるほど、恋しく会いたい気持ちが増してきて、1 度でも、お化けでも幽霊でもいいから、会いたいなと心から思います。」母子家庭のため時に仕事を掛け持ちしながら美帆さんと 1 つ上の兄を 1 人で育ててきましたが、自分がいなくなったあとを考え、津久井やまゆり園に預けたのは事件の 4 か月前のことだった。『私の娘に生まれてくれてありがとう』という思いと『やまゆり園を選んでしまつてごめんなさい』という思いがあります。私があそこに決めなければこんなことにはなっていなかったのに、私のせいじゃないと周りには言ってくれますがどうしても消えない。いつもは心の中の開けない箱に隠してある気持ちです。】

植松被告は「施設での勤務経験から重度障害者は不幸であり、その家族や周囲も不幸にする不要な存在であると考えようになった。」と非常に身勝手な考えで犯行した。

植松被告が発言した『勤務経験』とは、元々利用者に対し「かわいい」という感情を抱いていたが、共に働いていた職員が利用者に対して命令口調で話す、また暴力を振るう職員の姿を見て、「暴力は良くないのでは？」と植松被告は伝えたが「2、3 年もすれば分かる。」と返答されてしまった。後に植松被告自身も利用者に対し犬や猫をしつけるのと変わらないと感じるようになってしまった。

職場の環境の影響力はとても大きいと感じた。私は専門学生時代、とある入所施設で実習をさせていただいた。そこではパニックになった利用者を個室に鍵をかけて閉じ込める場面を見かけた。当時の福祉未経験だった私は、その行動に問題があると気付かず、その支援が正しいと感じていた。もし私がそのような環境に就職をしていれば、当然のように同じ行動、またはそれ以上のことをしてしまっていたかもしれない。

福祉職員になり 10 年目を迎えた今の私にできることは、利用者との関わりで得た沢山の幸せを、周りの職員に伝えていくことだと感じている。障害者に対しての虐待や、差別的な言動、行動が起きてしまうきっかけは知識や経験不足、助ける側と助けられる側という固定観念からが多い。私自身のこれまでの経験を振り返ると、利用者との関わりで沢山笑顔にさせていただき、沢山助けていただいた。これらの経験を広め、利用者本位な事業所作りを今後も目指していきたい。

（はるか 舟山 和希）



法人内 他事業所交換研修



法人内交換研修について

つくばね会では、令和6年度の取り組みとして職員の交換研修を実施しました。これは、職員が法人内の所属していない他の事業所に5日間研修に行き、実際に業務を体験することで、様々な学び・職員のキャリアアップにつなげていきたいと、法人としては初めての取り組みになります。

異動がない限り、なかなか知りうる機会もなかったため、まずは知ること、そして学んだことを今の自分に活かすことができます。また、受け入れ先も他の事業所の職員が来ることで、情報交換の場にもなり、相互にいい刺激となります。

この交換研修は令和7年度以降も毎年継続していく予定にしています。

（サポートセンターけやき 樋口 恵理子）

はじめての発見！交換研修

はるかには 8 名の職員の方が来てくださいました。

普段は、法人会議や委員会等で、ほんの少しだけしか顔を合わすことのない職員が、メモをポケットに忍ばせ謙虚な姿で職員に、質問を投げかける姿はとても新鮮で、身の引き締まる思いでした。

1 日 1 枚のレポートを作成するのですが、職員のコメントの中には「福祉に携わって 20 年、率直に初めて出会う福祉の世界であると同時に、障害のある方が一般企業に就職して就労を継続できるよう利用者とコミュニケーションをとることの重要性を感じました」「自分が関わっていた利用者が就労移行で訓練をし、一般企業でどのように頑張っているのを見てみたかった」「グループホームのみでの関わりでしかなかった利用者が、日中活動でとても輝いている姿を見て驚いた」等、新しい発見や学びを沢山報告していただき、「はるか」では日常であることが、他事業所の皆さんの学びになったことは本当に良かったと思います。

特に初めて、一般企業の定着支援同行に参加した職員からは、障がい者に対する企業の理解のハードルの高さに驚いた等、声を沢山いただきました。また、はるかに対しても、沢山のアドバイスや質問をいただき、支援や仕組みを振り返るきっかけになりました。

初の交換研修でしたが、学びが多く今後も継続して行きたいと思います。

（はるか 管理者 三代 晃子）

5 日間の職員交換研修を終えて

今回は、多機能型事業所である、はるかで研修させて頂きました。はるかでは、アプリを利用して全体のスケジュール管理を行い、朝のミーティングで B 型・移行での引き継ぎをしっかりと行うなど、徹底した情報共有が行われています。また、主任がスケジュール管理や調整、翌日のプランニング等を行うことで現場の要となり、作業が展開されており、主任の役割が非常に重要であると感じました。さらに、作業ローテーション、作業工程マニュアル、チェック表などを整備・活用することで、誰もが統一された同水準の取り組みができる体制が整えられており、多くの学びや気づきを得ることができました。

何よりも、職員配置に決って余裕があるわけではない中で、運営を継続していくための工夫がなされており、目の前の利用者に対して職員が自信を持って支援を提供していることは、事業所の大きな強みであると感じました。他にも、今回の研修では、同じ立場である主任の動きや役割について学ばせて頂いたことで、自身の考えを深めるきっかけとなりました。

終わりに、本研修は法人職員全員で取り組んでおります。研修が毎年実施されることで他事業所を知る機会となり、個々の気づきや学びが新たな支援観（価値観）の構築や、利用者支援の向上につながっていきます。それらは日々の支援に活かされ、職員のモチベーションを高めるとともに、普段接することの少ない他事業所の職員との交流を通して、法人全体の風通しを良くする効果も期待されます。このような交流は、新しい人間関係の構築や、より良い職場環境形成の後押しとなり、全体のパフォーマンス向上にもつながると思っています。

そして、今後受け入れる側に立った際には、統一された受け入れと目標設定を行い、アウトプットすることで学びとし、対人関係スキルも向上させていくことができます。また、共にそれぞれ振り返り・評価をフィードバックし合うことで、お互いの育ちにつながると考えます。

このように、様々な効果が期待できる職員交換研修は、個々にも、全体にも良い影響を及ぼし、利用者にとってより安心でき、さらに居心地の良い居場所（事業所）となっていくと信じています。今後とも、積極的に研修に取り組んでいきたいと思ひます。

（おおばん 吉田 将人）

交換研修を振り返って ～サポートセンターけやきにて～

令和 7 年 1 月、サポートセンターけやきにて、1 週間ほど研修を行った。相談支援事業所の業務は単に相談の窓口というだけでなく、モニタリング、利用計画の作成、自立生活に向けての援助、また各関係機関との連絡調整など多岐に渡る。

業務の多忙さ、求められる知識量の多さにも驚いたが、一番実感したのは障がいを持っている方、あるいはそのご家族様にとっての「架け橋」としての重要性と、その方自身の「想い」に目を向けることの大切さである。

相談員は人と福祉を繋ぐ、あるいは人と人を繋ぐコーディネーターなどと言われたりもするが、まさにその方の「想い」を繋いでいるのだ。ヒアリングを通し何に困っているのか知り、何を求めているのかの部分にきちんと寄り添うことこそ大事であり、それは我々現場で働く支援員にも同様のことが言える。我々は基本的には事業所等での課題に対して支援を行っていくこととなるが、その課題の原因は何なのかを考え、その背景にきちんと目を向ける事こそ大切なのだと思う。相談支援事業所が「架け橋」ならば、我々支援施設はその想いを受け止める「受け皿」である。そして小さい受け皿では受け止められないことや、零れてしまうこともあるだろう。

広い視野と懐を持ち、一人ひとりの利用者に対して、その方の障がいの部分のみを見るのではなく、その方自身に対して真摯に向き合い支援しなくてはならないと、今回の研修を通して改めて感じる事が出来た。実に、みのりの多い研修であった。

（はるか 植原 大輔）